



▲ウッドレガシー議連設立総会には、国会議員、省庁、産業界から150人余の賛同者が集った

時の話題

「木の総合文化（ウッドレガシー）を推進する議員連盟」が発足
 自民党・衆議院副議長の衛藤征士郎議員を
 会長とする設立総会開く

2020年オリンピック／パラリンピック東京大会へ向け、ウッドレガシーの普及啓蒙、より積極的且つ強力に木材活用の推進を図る為、国会議員、関連省庁、産業界が連携

平成29年4月4日(火)午後、衆議院第2議員会館1階の多目的会議室では木材産業に関わる産・官並びに政府与党議員或いは秘書、業界報道関係者ら150人余が結々と集結する中、15時から「木の総合文化（ウッドレガシー）を推進する議員連盟」(以下、ウッドレガシー議員連盟)の設立総会が盛大に開催された。

少しくその模様を追って見よう。定刻、ウッドレガシー議員連盟事務局次長の武部新氏（自民党・衆議院議員）の総合司会により「木の総合文化（ウッドレガシー）を推進する議員連盟」設立総会が開始された。



▲総合司会・事務局次長の武部新議員

長の中
 山 泰秀氏
 （自民党・衆議院議員）より、議員連盟提案とし

ての設立趣意書、役員、規約についての案件が示され、其々全会一致の拍手で以って承認された。

即ち設立趣意案としての、「2020年のオリンピックパラリンピック東京大会に向けて、新国立競技場をはじめ、各種競技施設や選手村の木造・木質化や椅子などの各種備品の国産材等の木材利用が検討・推進されている。

わが国は、古来より、豊かな森林資源を大切にしながら、神社仏閣や木造住宅、家具建具、木工品・調度品など木材を生活に取り入れ、技能・技術を磨き、「木の文化」を育んできた。

オリンピックパラリンピック東京大会は、「ショーウィンドウ」として日本の「木の文化」を世界に発信する大きなチャンスであり、木を使用した競技施設などのオリンピックレガシーを活用しながら、森林整備の重要性や地球温暖化の防止、木材利用の促進などの理解を深め、「木の文化」の国際的



▲事務局長の中山泰秀議員

の国際的



▲賛同する国会議員も忙しい中多数顔を見せていた

な交流、イベントや事業などを展開し、先人たちが築いた「木の文化」を引き継いでいくことが極めて重要である。

ついては、ここに「木の総合文化（ウッドレガシー）を推進する議員連盟」（仮称）を設立し、「木の総合文化」の普及・啓蒙及び木材活用の推進などについて積極的な取り組みを図るものとする。」との趣意書が正式に承認決定され、また執行部としては会長に衛藤征士郎氏（自民党・衆議院議員）、会長代行に太田昭宏氏（公明党・衆議院議員）、幹事長に原田義昭氏（自民党・衆議院議員）、共同幹事長に石田祝稔氏（公明党・衆議院議員）、そして事務局長に中山泰秀氏（自民党・衆議院議員）、事務局次長に稲津久氏（公明党・衆議院議員）、同じく事務局次長として武部新氏（自民党・衆議院議員）が会場の拍手で以って選出さ

最終的な目標は、2020年のオリ・パラの年、国連が国際森林の日と謳っている3月21日に国際的な大々的イベント

を、併せて、ウッドレガシー議員連盟規約案(第1条)第9条、別掲)も承認された。これを受けて幹事長となった原田義昭氏よりウッドレガシー議員連盟の設立経緯が説明された。原田氏は「日本は木の文化、木の歴史が長い。私どもは木工関係業界の皆さんと関係が深く、何としても木の文化を維持発展させ、併せて2020年のオリ・パラに向けて日本の木材をどう活用するか、また、(将来的に地球や森林)環境保護を考える転機にしたい」と4月4日という新しい年度の大事な日が決められ、私ども議員団の方も非常に追い立てられるように今日の会議をご案内した訳であり、沢山のご参加をお願いしたいと思う。

木に関しては、既にCLT推進議員連盟、木造住宅推進議員連盟、木材利用活動議員連盟、更には家具推進議員連盟等があるが、それを包括するような議員連盟を創れたら良いと、木の総合文化、ウッドレガシーという名前にした。日本の木材の加工技術と文化を発展させ、国際社会の模範となるよう木材産業の発展を目指す」と云う事であり、私ども(政治)もそういうした期待にしっかりと応えなければいけない。

木の香りがする家、木の香りがする故郷、また木の香りが漂う街並、これが我々

張ろうではないか。政治的には自民党と公明党がこの問題では特に親しく付き合い、今後とも力を合わせて進んで行く。当然、政治的な枠も広げて遠大な将来目標を定めて行こうと思っている。衛藤征士郎先生には会長、太田昭宏先生には会長代行と、重い役を引き受けて頂き、また石田祝稔先生には共同幹事長として、よろしく願いたい」と、ウッドレガシー議員連盟を包括的、横断的な組織にしたいとの強い期待を語った。

続いて、会長挨拶として衛藤征士郎氏がマイクを片手に、「原田先生、太田先生と一緒に協力して会を進めて参りたいと思う。役員構成については、会長一任でお願いしたい」と問いかけ、会場万雷の拍手で了承された。

引き続いて、太田昭宏会長代行が「新しい議論としてスタート出来て大変嬉しく思っている。私も国交大臣を三年経験

の目標である。今日は役所の内閣官房の他、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省からも出席して協力頂いている。例えば、少子高齢化社会での人口減少で過疎が進む中、統合された小中学校が県産材、国産材で造られれば本当にありがたい話だ。こういう場面で各省庁には合併特例債、辺地債とか過疎債の検討を頂き、また地方交付税の問題で全面的に協力して貰いたい。

また道の駅や高速道路のパーキングエリア、新幹線のプラットホーム、待合室、地域の公民館、或いは地域の文化会館にもふんだんに国産材を使って欲しい等、色々と遣らなければならぬ。皆さんと共に、知恵を絞って、特に全国の知事、や市町村と連携する必要がある為、議論としても目配りして行きたい。



▲政府側として各省庁からも多数参加

し、木材が色んな意味で注目されており、日本の森林、木材、加工について全体像の中で推進する大きなエンジンが必要であるかと常々思っていた。一階はRCだが木造五階建ての老人ホームの建設、木造三階建ての学校建築、2020東京オリンピックとパラリンピックでは木材をふんだんに使って遣ると云う事もある。木は安らぎ効果もある。今日は各々が一堂に介し、新しいエンジンをもって推進して行くスタートになった。協力して頑張ろう」と挨拶し、会場に集う参加者にエールを贈った。



▲ウッドレガシー議員連盟幹事長の原田義昭議員

れ、併せて、ウッドレガシー議員連盟規約案(第1条)第9



▲会長の衛藤征士郎議員

をやつて、それを運動の目標、契機にして次の将来に向け頑



▲会長代行の太田昭宏議員

の目標である。今日は役所の内閣官房の他、文部科学省、厚生



▲事務局次長の稲津久議員

年4月4日 東京オリピック・パラリンピックが開催される

る2020年(平成32年)3月21日(国連が定めた「国際森林の日」)に国際木文化学会(IWCS)などとの共催により、国際大会を開くことを目的とし、中長期的に次の様な事業を推進する。

- ①木のレガシー記念式典の開催、②世界各国の関係者の参加を得たフォーラム・シンポジウムの開催、③神社仏閣や新たな木造建築・施設の紹介、④家具・建具・伝統工芸品・木工機械等の展示会の開催、⑤記念植樹等を全国的に展開、⑥海外の政府機関・団体との協賛、協力を得て世界各地の木の文化に関わる工芸品、音楽、ドキュメンタリー等の紹介、⑦「木育」の普及と推進、⑧その他関連する事業

これら各種事業を推進するに当たり、2017年度中(平成29年度中)に、関係省庁等の主導により、その基本理念・基本計画・実行体制等を検討し、取り纏めを行うための有識者による「国内委員会」(仮称)を別途組織する事。



▲政府代表挨拶をする林野庁の今井敏長官

以上決議する。』との決議文は万雷の拍手で、以って承認され、

採択された。

さて、ウッドレガシー議員連盟の設立総会には内閣官房、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省から18人の出席者が政府側として名を連ねていた。

政府代表挨拶として林野庁長官の今井敏氏が立ち、「木の総合文化を推進する議員連盟、ウッドレガシー議員連盟が設立された事、木の行政に携わる役所としては大変心強く、今後先生方からのご指導ご支援を切にお願いしたい。2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会をまたとない機会と捉え、木の総合文化の普及啓蒙、木材活用の推進に積極的に取り組んで行く」と受け止めさせて頂いた。昨年、新国立競技場のデザインが木をふんだんに使ったものとして決定され、森林林業木材産業行政に携わる者としては非常に勇気づけられるビッグニュースだったが、これを木材利用拡大の契機として、長く培われた日本の木の文化、木材加工等の高い技術水準を世界に向けて発信する機会にしたいと考え、関係省庁と連携を取りながら色々進めている。

本日、各省庁の横串を刺すような木の総合文化を推進すると云う切り口の議連の発足による後押しで勇気づけられた。今後、一層、関係省庁との連携を取り合っ

て、木の関連施策の推進に当たるつもりである。先生方の益々のご指導ご鞭撻を願う」と、決意と謝意を述べた。ウッドレガシー議員連盟設立総会には更に続いて、学識者による基調講演へと移った。

まず、日本木材学会元会長で東京農工



▲講演者の服部順昭・東京農工大学名誉教授

大学名誉教授の服部順昭氏が「木材利用の意義と利用技術の現状・展望」のテーマで講演した。



▲講演者のマイク・ウェン・ピン・ホウ氏

講演の中

で服部順昭氏は、温室効果ガスを減らす上にも木材を使う必要があると語り、木材のマテリアル利用、ケミカル利用、サーマル利用についてCLTの普及、木材繊維を利用したCNFの開発事例、木造耐火技術を活用して都市部の木造化の可能性を示し、今後はLCA(ライフサイクルアセスメント)手法を活用して木質化を推進すべきだと提言し、最後に「木は素晴らしい」と、締め括った。

続いて、2007年にロサンゼルスに設立したInternational Wood Culture Society(国際木文化学会)ディレクターで、2013年にロサンゼルスに設立されたWorld Wood Day Foundation(ワールド・ウッド・デイ基金会)の委員兼ディレクターでもあるマイク・ウェン・ピン・ホウ(Mike Wen-Pin Hou)氏が「持続可能な未来に繋げる木の文化ーWorld is Good」のテーマで講演し、

文化的な視点から見る木の良さを研究、教育の促進と、木を使ったモノづくり、社会活動、自然環境等の価値観を育み、持続可能な木の文化を未来へ繋げて行く

為の、「3月21日ワールド・ウッド・デイ」イベントをタンザニア、中国、トルコ、ネパール、アメリカに続いて日本での開催を呼び掛けた。日本語通訳は、2011年から国際木文化学会特別研究員でオペレーションマネージャーのシャーロット・チャーファー・リー(Charlotte Chia-Hua Lee)女子が担当し、両講演内容に会場から理解と共感の拍手が贈られた。

ここで、司会者より会場からの質問・意見を受け付けた処、奈良4区選出の田野瀬太道衆議院議員より「奈良県の吉野から選出されているが、林業の成長化に向けて政治生命を掛けて行きたい。そもそも日本では木の文化観が希薄になっている。八百万の神の中でも3貴人の一人であるスサノオノミコトが木をつくったという話すら知らない。教育が大事な山の機能は人が手を入れ続けないと保てない。(世情は)全国で木を使わない様の真逆の取組みが横行している気がする。(実は)木を使う事が環境に良い事を議連で(より強く)発信して頂きたい」との要望意見も寄せられた。

さて、講演会に続いて後は、関連業界団体(12団体)を代表して木材産業要望活動団体代表幹事の原口博光氏と日本合板工業組合連合会会長の井上篤博氏が挨拶を行なった。



▲要意見を述べる田野瀬太道議員

でもある原口博光氏は、「ウッドレガシー議員連盟の発足は、日



▲無事設立総会を終えて乾杯！



▲日本合板工業組合連合会理事長の井上篤博氏



▲木材産業要望団体代表幹事の原口博光氏

本にとり、画期的な取組みで、皆様にご感謝申し上げます。地球温暖化の防止と云う命題の鍵は森林保護と木材利

用の両立にある。木を植える為には伐る事が重要。そこで21世紀の成長産業としての（持続的な）木材産業の在り方、特に政策では資源の循環利用を重視し、国民全体へ認識させた国民運動として盛り上げて行く事が大事である。大きな課題として木と環境、教育という関連した捉え方が必要で政界、官界、学界、産業界一体となつての取組みが不可欠。皆様のご指導ご支援ご協力を賜りたい」と、挨拶した。

最後に、木材製品製造業界を代表して挨拶した井上篤博氏は、「我が国は森林大国で、国土の約68%の森林はフィンランドに次いで2位。人工林の比率は41%で中国、フィンランド、ニュージーランドを超えて世界1位。にも拘わらず人口一人当たりの木材の利用量が0.6m³と少ない。これを打開するには木材の活用が大事で、丸太のまま使う事例もあるが基本的には製材、集成材にして柱にした

り、合板、繊維板という面材にして使う。立派なフロアリングと云うインテリア、或いはウッドデッキというエクステリアとして、更に家具や建具として加工する。木材の目に見えない使い方としてはコンクリートの型枠コンパネ、屋根や壁に覆われてしまい目に触れない構造用合板もある。見える所、見えない所での木材の使用量を高めて行く事が重要である。ウッドレガシー推進議員連盟が創設され、木材製品生産団体としてはこれからも技術の研鑽を積み上げ、より高品質な製品をより安定的に生産・供給出来る事をお誓い申し上げます」と、挨拶の中で感謝の意を語った。



▲施策説明する経産省課長補佐の服部嘉博氏



▲挨拶する木材産業要望団体事務局長の川喜多進氏

以上、ウッドレガシー議員連盟設立総会を全了し、無事閉会した。この後、同じ場所で開催される懇親会が催され、互いの結束を確認しあつて晴やかに散会した。本誌としても、ウッドレガシー議員連盟の今後の活躍を見守り、随時発信して行きたい。

ウッドレガシー議員連盟参加の関連業界団体及び代表者名（敬称略） ①木材産業要望活動団体代表幹事・原口博光／事務局長・川喜多進 ②日本合板工業組合連合会 会長・井上篤博 ③日本繊維板工業会 会長・澤木良次 ④日本合板商業組合 理事長・足立建一郎 ⑤（一社）全国建具組合連合会 理事長・佐田時信 ⑥東京都家具工業組合 理事長・山口貞雄 ⑦全国天然木化粧単板工業協同組合連合会 会長・松尾和俊 ⑧日本機械鋸刃物工業会 理事長・渡邊将人 ⑨全日本木工機械商業組合 理事長・桑原征人 ⑩（一社）日本木工機械工業会 理事長・井本希孝 ⑪日本複合・防音床材工業会 会長・海堀哲也 ⑫日本木造住宅耐震補強事業者協同組合 理事長・小野秀男。

「木の総合文化（ウッドレガシー）を推進する議員連盟」規約
 （名称）第1条 本連盟は、「木の総合文化（ウッドレガシー）」を推進する議員連盟」と称する。
 （目的）第2条 本連盟は、2020年開催のオリンピックパラリンピック東京大会の成功に向け、日本の「木の文化」を世界に発信し、木を使用した競技施設などのオリンピックレガシーの活用、森林整備の重要性や地球温暖化の防止、木材利用の促進などの理解を深めることにも「木の文化」の国内外の交流、イベントや事業などを展開し、「木の総合文化」の普及・啓蒙及び木材活用の推進などについて積極的な取組みを図るものとする。
 （構成）第3条 本連盟は前条の目的に賛同する自由民主党及び公明党所属の国会議員をもって構成する。
 （役員）第4条 本連盟に次の役員を置く。会長1名 会長代行1名 副会長若干名 幹事長2名 事務局長2名
 （顧問・相談役）第5条 本連盟に顧問・相談役を置くことができる。
 （事業）第6条 本連盟は、第2条の目的を達するに必要な事業を行う。
 （会議）第7条 本連盟の会議は次のとおりとし、会長が召集し、議長となる。
 総会 年1回 役員会 随時
 懇談会 随時
 （経費）本連盟の経費は会費及び寄付金をもって充てる。会費は議員の歳費から拠出し月1000円とする。
 （細則）第9条 本連盟の運営上必要な細則は会長が定める。